



和歌

古語深秘抄

心風神抄
和奇伝訂

五

NO 940
10.

和歌古語深秘抄 五

都留文科大学附属図書館所蔵

心風神抄

千歳集

中一巻并上

妻乃無しの形留の梅ととも家月を
ひらととも如月家いんちんをいんちん

十首并人よしよませはゆけり時花入
中一巻并上

見よしおの世のありとともいんちん
うしのあつたはよこまねうせき

中三巻并下



梅政右大臣の時の守令一邦一云の

三十一

すきあかりの夜にのほろめれほろめれ
し急いぬくしあかいろして

五九十一の中

あはれいこゆりあはれいこゆり

いこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

廿五十一

八景抄上

いこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

廿五十一

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

あはれいこゆりあはれいこゆりあはれいこゆり

ふりりくくわら秋のくまきり
秋のあきくくまきり

有原定家

志くまゆくくもの柳の色くまきり
秋のゆくの柳の色くまきり

貞久冬平

定家

冬くまきりくくまきり
冬くまきりくくまきり

崇徳院は百首平もり多家時
有原の平もり多家時

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あきくくまきりくくまきり
あきくくまきりくくまきり

あはれうららけお川乃とて

中七 詠別 中

百首 中 七 詠別 中

ふむらふ

しるしとてあはれなるはかきひ衣
つとむらふらふやまらふらふらふらふ

中八 霧 詠 中

海つとよそのとまわらうらふらふらふ
さしとるさしとるさしとるさしとる
あはれなるはかきひ衣

あはれとて袖うらふらふらふ

中十 賀 詠 中

しるしとてあはれなるはかきひ衣
あはれなるはかきひ衣

あはれなるはかきひ衣

あはれなるはかきひ衣

あはれなるはかきひ衣

あはれなるはかきひ衣

あはれなるはかきひ衣

中十一

日敵は百さあめいしゆるきる時
あしるゑのらよいしゆるき
あしるゑのらよいしゆるき
あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑ

いふにきんじろのハ橋よ夜もくれ
あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑ

れいひふやあちのらよいしゆるき
あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑ

ははあしるゑのらよいしゆるき

あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑのらよいしゆるき

あしるゑ

あしるゑのらよいしゆるき

あつねのひよをわくせん

梅政右大臣の御前乃ち合ふ恋の心

とくろふか

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

才十の恋五

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

定家

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

才十の恋五

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

あつねのひよをわくせん

ふれり月をさしつゝあつり

二条院にじょういんの御代まで伝長行ると

とありひてうとむらふ

いさされのまろとあつりよ

いりや井の月をさるる人

井ナセ 新帝一也

道世乃板花乃帝とてよあふ

帝のど乃まゝしそつりよ

花を板すもあひ也

花さつりよは花さよあつり

金堂のあつむのあつりよ

よつりよ

あつりよあつりよをさつりよ

らつりよあつりよあつりよ

あつりよあつりよあつりよ

あつりよあつりよあつりよ

あつりよあつりよあつりよ

あつりよあつりよあつりよ

あつりよあつりよあつりよ

あつりよあつりよ

うとあちちうりうりいさかきり
このうれほもるんやあけん

連像の百首
萬乃新しとある

世にわたりてあはれい
ふらわらうとあはれい

今と乃の村のあはれい
あやうらあはれい

しとあはれい
の年とあはれい

のぼりてあはれい
とあはれい
あはれい
あはれい

才十九 新編

法師のあはれい
乃とあはれい

あはれい
あはれい

鉤取糸のふ成すは侍り

更し又花をゆきくましり山
はれむしらのとまきこころそ

才二十 林旅

つらつらとゆりゆる男をととほしりの
ねをくしりくとあはるまきまきん

日社乃枝の蓋乃ふ合乃付月乃

あはれとよあか

まき川ゆらゆせ乃雲浪と

とゆりとくく秋乃夜の月

新勅撰和弁集才二

花とまきかきしりのあしきき
ふさくくう乃あまゆりくう

花園白家弁合よまらる花とつら

あはれとよあか

右巻門書る歌

うらのらぬ指もらんしと山とささく
むらあはれりよあまゆりくう

才二 五弁

寛政元年廿八日屏風

久々のうらやまのつらふあふひの
そ乃望りりさつよそくせん

寛政元年廿八日屏風

ゆきくさひをよそくけりぬ

右巻門書

あうき目の森乃あめ縄くわん
あうきくさひをよそくけりぬ

才田 秋并上

あうきくさひをよそくけりぬ

森乃あうき目のつらふあ

養和の秋并上

うらやま

あうき目のつらふあ
秋乃望りりさつよそくせん

あうき目のつらふあ
のうらやま
あうき目のつらふあ

才田 秋并下

ふのわのこども秋十箇年一此
まのりもさあ

右巻門書

行雲のそりの木乃多あも久此とぬ
とさ田の甲一ぬとやあ

圓白乃大長家

あらまつく被とよはさぬ秋乃日よ
さこそ見びろの山にきび

才六女

あやの争一ととゆるりよ

右巻門書

あまきくはあらとくせいの地る
よしの木の葉乃うとぬ日とさ

泥絵屏風

あまきくはあらとくせいの地る
あまきくはあらとくせいの地る

才六女

あまきくはあらとくせいの地る
あまきくはあらとくせいの地る

右巻門書

わく心乃目うけの雲乃むろく
人しそあしひくきくくあきこ

才十五 急二

建保六年唐申一久急くひ

くきくくくくくく

あしそあしひくきくくあきこ

才十三 急三

くきくくくくくく
くきくくくくくく
くきくくくくくく

日

くきくくくくくく
くきくくくくくく
くきくくくくくく

才十五 急六

建保六年内裏あ合平

あしそあしひくきくくあきこ
くきくくくくくく
くきくくくくくく

急十 首あうくくく

くきくくくくくく
くきくくくくくく
くきくくくくくく

才十六 雜字一

元暦のち月日ひかき系重保くこの
年とくわゆるく社所のち合しゆを
かよ月とよめか

あぢくともあぢぬびりの秋とく
れすしとくたらく月とあ

才十七 雜字二

老のは年とくしとあつとてゆり
くふとくしとあつとてゆり
て卯紀のあつとてゆり

海邊が民乃けりとのとくとの
うとくひきくとあぢらなりなり

園白た大居遊百着字しとゆり
眺らとの字

百友のちあつとてゆり
あつとてゆり

續後撰和字集

才一 美字一

建保二の字とあつとてゆり

江上美らし 春深る氏

人とりくたむをわいじん玉津橋
うすびりりはら美のあま月の

中二美并中

洞院移ぬ百首并花と

ゆきくふかぬ心乃さくく雲のやよ
ゆきくふかぬ心乃さくく雲のやよ
あまよけし雲のあまのいり
あまのいりし雲のあまのいり
あまのいりし雲のあまのいり
あまのいりし雲のあまのいり

花文の中

しゆまのつゆのさくくさたよ
神りかふりし雲のあまのいり

中四美并

あまのいりし雲のあまのいり
あまのいりし雲のあまのいり

中六美并中

秋にたけくさあめつた月をとほ
さゆくもあまのいりし雲のあまのいり

中七美并下

寛治元年日書入内局風

三田山一そのものむららの文母一を

一一まねねの文一も忍一て

建永二年九月一符一とあり

ゆ一時一中一秋一興

そのめとあんとあつとまにまの向一心

ゆ一らとぬとせ秋ととと

東九律紙一符

入道前一後一取一取一文一合一よ一取一一一月

平次川一神一氏一乃一候一く一付一と一あ一く

今一し一ら一と一あ一れ一乃一取一志一月

乃一め一初一く一之一痛一乃一取一村一少一り一よ一り一あ

一一乃一神一氏一乃一志一初一一一あ一り一ん

と一能一言一よ一ま一り一て一候一や一よ一日一吉一社一

ま一の一り一よ一ま一り一て一候一や一

若一ら一く一の一也一乃一乃一あ一り一と一わ一ら一る一し一り一

目一ら一あ一り一ま一り一を一結一わ一ら一ら一ん

才一上一之一意一一一也一意

表一出一紙

ま一り一ま一り一か一の一部一り一あ一ら一け一く一し一

い一ま一り一の一部一あ一ら一ひ一ま一り一し一

才十一急二

急乃平此中一

あふゆゑの急そいけらふ物なる
と一月がうき物ゆへとく

中十一急二

あふゆゑの急そいけらふ物なる
と一月がうき物ゆへとく
あふゆゑの急そいけらふ物なる
と一月がうき物ゆへとく
あふゆゑの急そいけらふ物なる
と一月がうき物ゆへとく
あふゆゑの急そいけらふ物なる
と一月がうき物ゆへとく

うらまゆきて 憂りーとゆと
中十一急二

急乃平此中一
あふゆゑの急そいけらふ物なる
と一月がうき物ゆへとく
あふゆゑの急そいけらふ物なる
と一月がうき物ゆへとく

如惠雲院敷律自筆奉書

書寫通一授早一

毎月乃律百首うろく存見せしめいね
凡は友の心弁と海甲とにまこころうり
くハきりくわらんよあきもあきと外
のいそごころとさうりとりとさうり
とくくつたんえんのP部一庭別のうり
をPとあきくさうりあきくわんせのうり
あきもさうりさうりあきもさうり
あきくんとあきくんとあきくんとあきくんと
あきくんとあきくんとあきくんとあきくんと
あきくんとあきくんとあきくんとあきくんと
あきくんとあきくんとあきくんとあきくんと

美事なりとのしり物撰を足らうとして
 成りしつらりもしてゆきふさういふと
 ぬきそれよりして物撰のすされん
 かまひとすしにたりしてさう
 人しつらひ世しつらひつらひの思慮
 らるらり美事なすに代をあらう
 らもましして世のあらう
 こと物なり時々のつらう
 あらうこと但物なす
 ことつらうてはなり又美事の思ふ

美事なりとのしり物撰を足らうとして
 成りしつらりもしてゆきふさういふと
 ぬきそれよりして物撰のすされん
 かまひとすしにたりしてさう
 人しつらひ世しつらひつらひの思慮
 らるらり美事なすに代をあらう
 らもましして世のあらう
 こと物なり時々のつらう
 あらうこと但物なす
 ことつらうてはなり又美事の思ふ

雨よりぬれし一はひもやしゆりさ或ハ
 美衣衣せうあうしきまうくゆれこの
 海一そのらまうの美よかてそのの
 衣うんととるくくうしきまうたにりて
 勅撰一のらとりし型一ううのりしゆらうや
 かしきあめしきよあうしきまうの美よ
 美衣衣せうあうしきまうの美よかてそのの
 衣うんととるくくうしきまうたにりて
 勅撰一のらとりし型一ううのりしゆらうや
 かしきあめしきよあうしきまうの美よ
 美衣衣せうあうしきまうの美よかてそのの
 衣うんととるくくうしきまうたにりて
 勅撰一のらとりし型一ううのりしゆらうや

うしきまうの美よかてそのの
 衣うんととるくくうしきまうたにりて
 勅撰一のらとりし型一ううのりしゆらうや
 かしきあめしきよあうしきまうの美よ
 美衣衣せうあうしきまうの美よかてそのの
 衣うんととるくくうしきまうたにりて
 勅撰一のらとりし型一ううのりしゆらうや
 かしきあめしきよあうしきまうの美よ
 美衣衣せうあうしきまうの美よかてそのの
 衣うんととるくくうしきまうたにりて
 勅撰一のらとりし型一ううのりしゆらうや
 かしきあめしきよあうしきまうの美よ
 美衣衣せうあうしきまうの美よかてそのの
 衣うんととるくくうしきまうたにりて
 勅撰一のらとりし型一ううのりしゆらうや

こそ俗とよみまじりていふもよみかへ
 せしむるはよみかへりて俗とよみかへ
 らんやいふやいふにいふにいふに
 のんたのんたのんたのんたのんたのんた
 こそよみかへりていふにいふに
 よよよよよよよよよよよよよよよよ
 らんらんらんらんらんらんらんらんらん
 ろろろろろろろろろろろろろろろろ
 のんたのんたのんたのんたのんたのんた
 こそよみかへりていふにいふに
 よよよよよよよよよよよよよよよよ
 らんらんらんらんらんらんらんらんらん
 ろろろろろろろろろろろろろろろろ

こそ俗とよみまじりていふもよみかへ
 せしむるはよみかへりて俗とよみかへ
 らんやいふやいふにいふにいふに
 のんたのんたのんたのんたのんたのんた
 こそよみかへりていふにいふに
 よよよよよよよよよよよよよよよよ
 らんらんらんらんらんらんらんらんらん
 ろろろろろろろろろろろろろろろろ
 のんたのんたのんたのんたのんたのんた
 こそよみかへりていふにいふに
 よよよよよよよよよよよよよよよよ
 らんらんらんらんらんらんらんらんらん
 ろろろろろろろろろろろろろろろろ

御下せいのしめく髪髻とくの中りたるう
 そゆくとあさしとまきくよとあはるう
 ひとよと髪削とのいふとあつとそのあやせ
 町しとあくしとまきくよとあはるう
 つまのねるあつとまきくよとあはるう
 年来の道くまきくよとあはるう
 他人のうらうしと隠るる屋とのことすか
 とつまのねるあつとまきくよとあはるう
 めして四つとまきくよとあはるう

建長四年五月十日从彼国平世忽忽
 写之此庭初者京極入道中納言令賜
 故衣笠内府汗多、余しく名執一々
 甚深や不秘と

桑門題後

文明九年三月五日以武秘奉令書
之和解之秘傳尚道之奧旨也
為為知く抄之也之起料尔者平

特達源通秀

日十七年小春上九夜焼下一時終功
はかた中院一品通秀自筆也依或
人之言々々令書之也

業門宗瑞 在判

以是奉令讀合既不可為續奉決

きれうらん世り教るる

之の之乃

わくはらうかさ

とくひ

るる
とく

